

23. 非分離動詞

1. 単語の意味を広げていくためには単語を並べたり結びつけたりしますが、動詞では接頭語をつけてその動詞の意味をいろいろに変化させます。例えば日本語では「笑う」という動詞に「あざ」という言葉を接合すると「あざ笑う」という新しい動詞ができるのと同様に、英語やドイツ語でも以下の例のように動詞に接頭語をつけると、新しい意味の動詞ができ上がります。

「理解する」 ver + stehen = verstehen under + stand = understand

こうした接頭語には決まりがあって、ドイツ語では次の7つのものに限られます。この接頭語はぜひ覚えておかななくてはなりません。

be-, emp-, ent-, er-, ge-, ver-, zer-,

ドイツ語ではこれらの接頭語は単独で、独立した単語として使われることはなく、従ってそれ自体ではほとんどなんの意味もありません。また英語の接頭語をつけた動詞 (*begin, forget* など) と同様に、この接頭語にはアクセントがなく動詞本体にアクセントがあります。

こうした接頭語は昔は意味があったはずですが、今ではほとんど明確な意味が失われてしまい、例えば英語の *stand* 「立つ」も *under-* をつけるとなぜ「理解する」という意味になるのかはよくわかりません。ドイツ語の *stehen* という動詞は英語の *stand* と同じ意味なのですが、*verstehen* がなぜ「理解する」という意味になるのかは、英語の場合と同様にはっきりしないのです。

このような接頭語をもつ動詞は、この接頭語がいつも動詞にくっついたまま離れないかたちで使われますから、ドイツ語では「非分離動詞」という言いかたをします。この非分離動詞は英語よりずっとたくさんあって、例えば独和辞書で *ver-* で始まる単語を調べると数十ページにわたって書いてあるくらいです。

次に非分離動詞の使用例を見てみましょう。

Sie besucht ihren Onkel.	<i>She visits her uncle.</i>
Wir empfangen unsere Gäste.	<i>We receive our guests.</i>
Entschuldigen Sie mich?	<i>Do you excuse me?</i>
Der Lehrer erklärt den Text.	<i>The teacher explains the text.</i>
Das Buch gehört meinem Vater.	<i>The book belongs to my father.</i>
Ich vergesse meinen Freund nicht.	<i>I won't forget my friend.</i>
Der Krieg zerstört den Frieden.	<i>War destroys peace.</i>

2. ごく一部の前置詞は分離動詞と非分離動詞のいずれにも使われるものがあります。たとえば、前置詞 *durch* (*through*), *hinter* (*behind*), *über* (*over*), *um* (*around*), *unter* (*under*), 副詞 *wieder* (*again*) などを前置詞とする動詞は分離・非分離動詞といわれています。

これらの前置詞は分離動詞としてアクセントを持つ場合は本来の具体的な意味となり、非分離動詞としてアクセントがない場合は比喩的な意味となって、例えば *über* は「…上方」「…越えて」というその本来の意味と、それから転じて「かなたへ」という抽象的な意味を持っています。そのために *übersetzen* という動詞は「…越えて…を置く」という本来の意味と、それから転じた比喩的な「…をむこうへ移す」「翻訳する」という意味を持つことになったのです。

Der Mann setzt mich mit dem Boot über.

「その男が僕をボートで渡してくれる」

Er übersetzt das Buch ins Japanische.

「彼はその本を日本語に翻訳する」

以上から理解できるように、一般的には分離動詞は具体的な意味を持っており、それに対して非分離動詞は抽象的な意味を持っています。

このような分離・非分離動詞はその数が少ないため、実際には日常でよくもちいられるいくつかの動詞だけを覚えておけば十分です。

非分離動詞として使われるもの

übersetzen

「翻訳する」

(分離動詞の「(向こうへ)渡す」という意味は初級文法ではそれほど使われません)

wiederholen

「繰り返す」

(分離動詞では「取り戻してくる」という意味ですが、日常ではほとんど使われません)

英語も同様な動詞をわずかですが持っています。

分離動詞的なもの

非分離動詞的なもの

hold up 「挙げる」

uphold 「支持する」

fill full 「いっぱい満たす」

fulfill 「果たす」

go under 「沈む」

undergo 「堪える」

英語でもドイツ語と同様に、接頭語が分離している熟語動詞の場合にはその意味は具体的であり、接頭語として動詞と一体化している場合にはその意味が抽象的になることがわかります。